



この「元禄上野国絵図」は元禄15年(1702)12月幕府の命令により前橋藩酒井家が作成しました。大きさは、縦520cm、横550cmという巨大なものです。上野国内の14郡・1213ヵ村が郡ごとに色分けされ、楕円形の枠の中に村名と石高が記されています。縮尺は2万1600分の1です。幕府は、正保元年(1644)、元禄9年(1696)、天保6年(1835)の三度国絵図の作成を命じており、その目的は、石高の増加や山川・境界の変化などを全国的に把握するためでした。

江戸時代の村は、16世紀末から17世紀初めに行われた検地によって成立しました。上野国内の支配の特色は、大きな藩が置かれず、幕府領・大名領・旗本領・寺社領に分かれ、それらが複雑に入り組んでいた点です。ひとつの村を複数の領主が分け合う複雑な支配形態をとる村もありました。

この絵図から、鶴舞うかたちの群馬県の実形がみてとれます。

村数の変化

郡名	寛文8年 (1668)	元禄15年 (1702)	明治元年 (1868)
	村数	村数	村数
邑楽郡	74	85	92
新田郡	88	113	118
山田郡	54	58	64
佐位郡	35	40	40
那波郡	44	60	62
群馬郡	186	205	209
勢多郡	137	176	180
利根郡	95	117	116
吾妻郡	79	88	89
碓氷郡	62	64	78
片岡郡	3	3	3
多胡郡	39	27	28
緑野郡	58	45	45
甘楽郡	179	132	141
合計	1133	1213	1265

※平均村高 約455石 約488石 約504石
 (寛文8年『上野国郷帳』、元禄15年『上野国郷帳』、明治初年『旧高旧領取調帳』(村数は明治元年のもの)より作成)

(文書館企画展・特別展「ぐんまの市町村合併」パンフレットより)